

インド

須賀 努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

日本の製造業にとって、ここ数年常に中国に次いで有望な進出先として名が上がるインド。だが一時の中国のような爆発的な進出ラッシュは起きていない。一体なぜインドへの投資が進まないのか。インドを旅しているとビジネスしていなくても多くのことを感じることもある。

インドで体調を崩す理由

「インドへ行くと腹の調子が悪くなる」とは、日本人ビジネスマンが良く言うセリフである。だが私は過去合計1か月以上のインド滞在で一度も下痢をしたことはない。その理由をインド人に聞くと「日本人の半分以上はインドに来る前から既に負けている。食べ物に中ると思っていれば神経的にやられる」と言い、「そんなに気にしていながら、スケジュールだけは日本と同じように過密。インド人でも一日何件も訪問すれば疲れが出る」と説明する。真にもっともだ。筆者の旅は実にゆったりと街々を訪ねるため疲れが少ないらしい。

そして同時に「インドほど緊張する国はアジアにはない」と思う。我々日本人は「ヒンズー教」や「カースト」などインドを理解する基礎知識が不足していると感じる。理解が無ければ快適に過ごすことは出来ず、余計なプレッシャーが掛かってしまう。ましてや、駐在となると、「生活」+「業務」となり、インドで生きていくのは大変だ。

インフラ整備は進むが

今回初めてアグラへ行った。アグラにはかの有名



写真1 デリー - アグラ間に新たに出来た高速道路

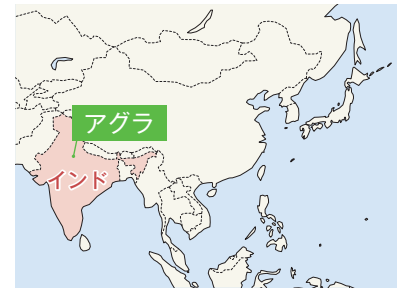
なタージマハールがある。3年前に行った友人は「デリーから車で6時間かかり道も悪かった」と言い、昨年初めに行った人は「高速道路が出来ていたが、それでも4時間半かかった。日帰りは厳しい」と言っていた。だが今年1月、我々はその道のりを僅か3時間弱で通ってしまった。もう一つ高速が出来たようで、真っ直ぐな道で車も殆ど走ってなかった。デリー市内の交通渋滞の方に時間を取られた感すらある。インドの道路整備は着実に進んでいる。だが……。

1年半前デリーでは空港から市内まで電車に乗った。僅か18分で到着。デリーが初めてだった筆者にとって、「なんだ」と思うほど簡単な旅だった。だが昔からデリーに行っている人々は「そんなはずはない。あの空港から市内にそんな簡単に行けるはずがない」と疑問を呈していた。そして今回空港へ行くと、市内行き電車の表示が見当たらない。聞けば運休中だという、それも半年前から。今度はこちらが啞然とした。インド通はにやりと「それがインド



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。



撮影：佐渡多真子



写真2 極寒の中、ガンジス河で沐浴するヒンズー教徒（ハリドワール）

さ」と事もなげに言う。

インドで一からビジネスを立ち上げるのは厳しい

「日本企業は一般的に自分達で一から工場を立ち上げ、販売網を築こうとするが、インドではそれは大変なこと。例えそれが成功するにしても、3-5年で形になる例は少なく、10年単位で考えないといけない」とは、あるインド駐在日本人の言葉である。昔中国でも同じことが言われたような気がするが、その後中国自身が先を争って発展に勤めたため、ある時期から「日本企業のスピードは遅すぎる」と言われるようにまでになった。だがインドでは、同じようには行かない。

「むしろインド企業を買収して、彼らにビジネスをさせた方がよほど成功の確率は高く、また成功するまでの期間も短くなる」と駐在員は続けた。実際に日本の大手製薬メーカーがインドのジェネリック薬品メーカーを買収した例などが報じられている。しかしインドに限らないことだが、「日本の大手企業は儲けだけに集中するのではなく、「日本とのシナジー効果なども相手に要求するので上手いかな

い」との話もあった。買収されたインド側からすれば「収益を上げて配当することが株主への責務」であり、買収した側は「インドでこんな業務展開をしている」と日本で言いたい、という鮮明な違いが決定的な困難さを生む例もあると聞く。

現在バンコック、香港、上海、シンガポールなどアジア主要都市で起こっている日本レストラン進出ブームもインドには届いていない。「インド人で和食をそのまま受け入れる人は少ない。宗教の問題もあるし」と、あるレストラン関係者は言う。デリーやチェンナイでは日本人常駐者が確実に増加しているが、それに合わせて日本食が増えている訳でもなさそうだ。実際スリランカのコロomboに行った時、「週末はチェンナイから来る日本人で一杯になる日本食レストラン」を紹介された。チェンナイの方が日本人は多いのに、態々国際線に1時間乗っても食べに来る理由は「インドでは調理する日本人板さんが定着しない」ためらしい。

実は中国人もインドでは苦戦している。中国人に言わせればインド人にはまるで柔軟性が無い」のであり、インド人に言わせれば「中国人は約束を守らない」と水と油のようだ。インド在住中国人が逃げ出している光景も実際に目の当たりにした。「インドで商売していくのは他のどの国より難しい」と言った華人の話が忘れられない。

中国人も攻めあぐむインド、日本企業にとってはまだまだハードルの高い国、と言わざるを得ないが、「約束を守る国、日本」はインドにとって悪い相手ではない。長期的な展望に立って、相手への理解に勤め、世界的な視野でビジネスを進めるべきかもしれない。